

おわりに

「孫育てガイドブック」を手にしていただき、ありがとうございました。心に届いたひとことはあったでしょうか。

当たり前のことですが、子育ての主役は『親』です。どんな場面であっても、子育ての方針を決めるのは『親』であって、『祖父母』ではありません。祖父母の役割は、一生懸命子育てをしている親たちの、「よりよいサポーター」になることです。そしてもうひとつ、成長していく『孫』の心に寄り添って、大丈夫だよと伝え続けることです。祖父母のあたたかな見守りは、子どもたちが自分の存在に自信を持てる心の糧となります。

孫の成長は、祖父母にとってはいつまでも楽しみです。ずっと心にかけていたいと思います。ただ、心にかけることはできませんが、「孫育てのサポート」にはいつか終わりが来ます。

孫育ての終わりには、二つのパターンがあります。一般的な終わりは、孫が大きくなって、具体的な手助けが必要なくなる時です。お迎えも、食事の世話もしなくてよくなります。クラブ活動や友だちとの付き合いのほうが祖父母というよりも当然楽しくなってきます。「じいじ～、ばあば～」と後を追ってきた日々はあっという間に終わってしまいます。

もう一つの終わりは、まだ具体的な手助けが求められている最中であっても、こちらの体力・気力・そして時には経済力に限界が来てしまう時です。子どもや孫に頼りにされるのはうれしいことですが、だんだん老いてゆく祖父母としては、気力・体力がついていかなかったときは、「NO」と言わねばならない場面も出てきます。また、孫の喜ぶ顔にほだされての出費は、孫の成長につれて年ごとに大きな額になりがちで

す。親の窮状を見かねての教育費援助などで、自分たちの老後の資金が危うくなってしまうは大変です。孫への出費は、「ここまで」という目安を決めて、冷静に対処することが必要です。

孫を一生懸命育てている親たちを「サポートしてやりたい」という気持ちに嘘はありません。でも、時には「サポートしてやらなければ」という責任感や義務感が、祖父母のストレスになってしまうこともないとは言えません。

「かわいい孫なのに、世話を考えると気持ちが沈む」「子育てを終えた人生の後半だからこそ、自分のための時間を持ちたい」などと感じたとき、これはわがままなのかと自分を責めてしまうこともあります。でもそれは、誰もが当たり前に思うことなのです。だからこそ、いま「どの程度のサポートができるか」を、その都度見きわめて、それを親たちに率直に伝えることが必要になってきます。

『祖父母』も『親』も、無理をしないで折り合っていくことが、お互いにいつまでもよい関係性を保つ秘訣です。

そしてもし、「子育てを手伝いたいのに、孫は遠くに住んでいる」とか、「孫に手がかからなくなった」「まだ余力がある」という方がありましたら、ぜひ、地域の子育てをサポートしていただけないか。「地域での子育て支援サポート」が社会へ広がることを心から願っています。

